

起業家フォーラム

社会変革企業を自認する

小松電機産業株式会社



小松昭夫（こまつ・あきお）

1944年島根県生まれ。73年、小松産業を創業。79年、小松電機産業（株）を設立。89年、協同組合テクノくまびきを設立。

ニュービジネス大賞受賞製品は
シェア60%のトップブランド

神話の国・出雲の地にあつて、
シートシャッターの全国トップシ
ェア（60%）を握る企業が小松電
機産業である。

85年に開発したオリジナル商品
の高速シートシャッター「門番」
が、その優れた防塵、防風、防寒
性から大ヒット。86年時点で6億
4000万円だった売り上げが、
90年には32億円に達した。

その業績が認められ、91年には
「ニュービジネス大賞」を受賞。
続く92年には、地域に点在する

浄水処理施設やポンプ場などを通
信ネットワークで結び、ホストコ
ンピュータで一括管理するシステ
ムの「やくも水神」を開発した。

同社を率いる小松昭夫社長の生
家は宍道湖・中海のそば。子ども
のときから泳いだり魚を捕って遊
んでいた湖に、近年、工場排水や
生活排水が流れ込み、水質汚染が
ひどくなる一方だった。

宍道湖の水をもう一度、泳げる
くらいにきれいになりたい、という
小松社長の強い思いが「やくも水
神」開発のきっかけだった。その
甲斐あつて、この製品は、95年に
科学技術庁の「注目発明選定証」
を受証している。

宍道湖・中海の浄化は小松社長
のライフワークだ。現在は、中海
本庄工区の中央海域を海洋牧場に
して栽培漁業を行い、周囲の一部
を埋め立て、そこを有機農業の拠
点にしようという事業計画を構想
中である。

小松 昭夫氏

失敗しない未来を創造する方法を 善悪の対立概念を越えて歴史に学ぶ

年間数万人の中・高校生が修学旅行で韓国に行き、独立記念館と戦争記念館を訪問しています。

そこでは日帝統治の頃、日本人が韓国の人々を拷問にかけたり、虐殺したりする様が、電気仕掛けの蠟

人形やコンピュータグラフィクスで生々しく展示されています。

その展示を凝視し、どう受け止めてよいかわからず、ショックを受けた子供たちが帰ってくる。その子供たちの気持ちを考えると、日本の将来が不安になってきます。

てきます。

独立記念館の展示は、国の主権を他国に奪われて多くの辛惨をなめ、今日に至るまで、複雑な半島情勢が続く韓国の人々の立場に立てば、理解できることであり、日本人としてこれをどう受け止めるかが、今、問われています。

それを、「いい

こともしてやったのに、そこまではやりすぎではないか」というような態度では、単なる居直りではないでしょうか。

また、過去についていつまでも言葉だけの謝罪を続けるのも、問題の本質の解決にならず、愚かなことだと思えます。

日本は、当時の世界情勢の中で韓国統治を国策として決定し、実行したわけですから、事実とその背景を探るなかで、どう受け止め、どう考えればよいのか、そして今、何を為すべきか。ここから出発すべきものと思えます。

私は韓国の東宇技研株式会社の曹秀煥社長と、シートシャッター「門番」で業務提携をし、何度も韓国を訪問しました。独立記念館も数回訪問し、そのとき同館を見学した日本学生がショックを受けてい



るのを見たことがきっかけになり、『人の縁と感謝・戦争の歴史館』を作ろうと思いついたのです。

歴史というのは、「陰と陽」の二つの要素から成り立っています。すなわち、異国の人との出会いによる文明の開花と、それに対する戦争・争いの悲劇です。その両方が時間軸の中で理解できる記念館をイメージしています。

この展示内容を決めるためには、未来を見据えた様々な論議が必要

97年6月、小松氏は韓国の独立記念館に日本人として初めて100万円を寄付。最初は受取りを拒否されたが、趣意書を送るなどして理解を得た



(プロフィールは、p30の企業家フォーラムをご参照ください)

で、その「プロセス」の中から未来が見えてくるのではないのでしょうか。

古来より現代に至る歴史の事実をさぐり、原因及びをその背景を一面的な善悪の判断を越えて研究し、

わかりやすく展示するのです。

さらに、「記念館」の中に「古きをたずね、新しきを知る」「未来を拓く研究所」を併設することを考えています。単なる展示スポットでは

なく、そこで研究が行われていることに意味があるのです。

古来、縁むすびの地といわれ、韓国とも深い関係にあった出雲からこの運動を起こすことで、戦前戦後

通じてぎくしゃくした国際関係をも解決し、閉塞感の漂う世紀末に活路を拓けることを確信するものです。